



2022年5月13日

各位

会社名 K u d a n 株式会社
代表者名 代表取締役 CEO 項 大雨
(コード番号 4425 東証グロース)
問合せ先 執行役員 CFO 中山 紘平
(TEL. 03-4405-1325)

連結業績と前期実績値との差異、連結業績予想値と実績値との差異及び 営業外収益の計上に関するお知らせ

当社は、2022年3月期の連結業績と前期実績値との間に差異が生じ、また、2021年5月14日に「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました2022年3月期の連結業績予想値と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社は、営業外収益を計上しましたので、下記のとおりあわせてお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期の連結業績と前期実績値との差異

(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 期 実 績 (A)	127	△451	△1,575	△1,608	△214.97
当 期 実 績 (B)	271	△433	△681	△2,237	△283.74
増 減 額 (B - A)	144	18	894	△628	
増 減 率 (%)	112.7	—	—	—	

<差異の理由>

顧客製品化に向けた開発案件のフェーズ進捗に伴う収入増加及びより幅広い適用領域での案件増加が売上拡大に寄与し、通年実績の売上高は前期実績値から増加となりました。

経常利益については、前期は、「持分法による投資損失」として、当社持分法適用会社であった Artisense Corporation (本社：米国カリフォルニア州、以下「アーティセンス社」といいます。)に係る投資有価証券及び同社への貸付金に対する評価減を計上していたところ、当期は、アーティセンス社において発生した期中損益の取り込み等はあったものの、「持分法による

投資損失」の金額が前期から減少したことにより、前期実績値との差異が生じました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、上記要因に加え、2022年2月14日付「営業外収益・営業外費用・特別損失の計上に関するお知らせ」において公表したアーティセンス社の子会社化に伴うのれん全額の評価減及び段階取得に係る差損により、前期実績値との差異が生じました。

2. 2022年3月期の連結業績予想値と実績値との差異

(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	300～350	—	—	—	—
実績値(B)	271	△433	△681	△2,237	△283.74
増減額(B-A)	△28～78	—	—	—	
増減率(%)	△9.3～22.3	—	—	—	

<差異の理由>

売上高の当期実績については、2021年5月14日に「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」においてレンジ方式にて予想値を開示しておりましたが、上記1記載のとおり前期実績値からの大幅成長は達成したものの、会計基準の変更による売上高の減額や一部開始済み案件の契約締結の遅延(2022年4月締結済み)により、上限予想値から差異が生じました。

3. 営業外収益の計上

ポンド・ユーロの為替レートの変動に起因する為替差益124百万円(うち24百万円については当第3四半期時点において計上済み)及び研究開発活動に対する補助金収入19百万円を営業外収益に計上しました。

上記3の営業外収益の計上による業績への影響につきましては、本日公表いたしました「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

■お問い合わせ先は[こちら](#)